財団法人アイヌ民族博物館　北海道白老町若草町２丁目３番４号

コタンメール

第３５号　　平成１９年３月３１日　発行

アイヌ文化講座　～食物についてのお話～

第４回「アイヌ民族の畑と作物」　３月 10 日（土）

北海道開拓記念館学芸部長の山田悟郎氏を招き、虻田町や八雲町などで発掘した畠跡と炭化種子から探った、アイヌ文民族の農耕についての話を聞きました。

山田氏によると、フィールドワークと文献を中心とした従来の研究はアイヌの農耕を漁労の補助程度と位置づけ、播種（はしゅ）は畝（うね）を作らないばら蒔（ま）きのみとされてきたが、その後の考古学的調査により、こうした通説を修正する資料が多く得られており、講座の中でもそのいくつかの事例が紹介されました。

1997 年に洞爺湖町(現虻田町)高砂貝塚で、1663 年に噴出した有珠ｂ火山灰の下から畝（うね）を持った畠跡が見つかり、そのほかにもかなり大きな畠跡が見つかっています。また、アイヌ文化期ではヒエ・アワが主要な作物とされていますが、出土した炭化種子を観察すると、それ以前の擦文文化期ではヒエよりもキビの生産が盛んであったことから、ある時期からヒエに交代していった経過がうかがえるといいます。

発掘が進展したばかりではなく、調査の手法そのものも改良されてきています。炭化種子の観察は、これまで目を向けられなかった発掘現場の残土を調べることによって可能となりました。これは、土砂を水中に入れて浮遊物を集め、顕微鏡（けんびきょう）で観察して種子を選別するという技術です。

こうした研究の積み重ねにより、アイヌの農耕が従来のイメージよりも大きな規模と歴史的な奥行きを持っていることがわかってきました。山田氏は最後に、今後も考古学の立場から農耕に関する研究を続けていくことが必要だと結びました。　（木田瑞恵）

第５回「アイヌ伝統料理の栄養について」　３月 17 日（土）

スローフードとして注目されているアイヌ伝統料理。苫小牧駒澤大学助教授の金内花枝氏は、各地で行われたアイヌ伝統料理教室などに参加して作った料理を、栄養学的に分析した結果について報告されました。

金内氏は、主要な料理としてオハウ（スープ）、チサッスイェプ（飯）、サヨ（粥）、ラタシケプ（煮和え）の栄養価について数値をそれぞれ計りました。これによると、オハウは炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン・ミネラルの栄養バランスの取れた料理であることが分かり、また、この４食品の組み合わせによって、鉄やカルシウムなどの必要な栄養素は全て摂取（せっしゅ）できていると話されました。

講演の最後に、今回の話はアイヌの伝統料理の基礎的なことなので、今後さらに深めていきたいと結ばれました。　（木田瑞恵）

へまた・てまな

ヘマタ＝なに、テマナ＝どのように……樺太方言

カーニクㇷ　金属の帯

樺太地方には、たくさんの金属で飾られた女性用ベルトがありました。アイヌ語でカーニクㇷ「金属の帯」といい、トゥマムテスカーニ「体にめぐらせる金具」ともいいます。ガラス玉のネックレスや金属製のピアスなどと同じく、女性が正装するときの小物のひとつです。

本体は皮製のベルトで、しんちゅうや銅の飾り金具がつけられています。ふつう、アイヌの帯は日本の帯と同じように両端をしばり合わせて使います。金帯の場合は、端に金属性のバックルがついていて、金具同士を掛けて締めるものもあります。北海道のユカㇲ「英雄叙事詩」などにウオㇰカネクッ「たがいにひっかかる金の帯」というものが出てきますが、それが、カーニクㇷのことではないかという説もあります。

樺太の人々は、帯に限らず、衣服やヘトムイェㇺ「ヘアバンド」などに、飾り金具をたくさん使いました。ガラス製のビーズと混ぜてワンポイントに使ったり、着物の襟やすそに並べて縫い付けたものが残っています。こうした飾り金具や、それを使う文化は、大陸の諸民族から取り入れられたといわれています。また、自分達で作ることも行われていたようで、金具を作るための鋳型（いがた）が残っています。敗戦頃まで、注文を受けて作る人がいたそうです。

かつての研究者は、カーニクㇷをシャーマンの装具だと考えていました。実際に、アイヌと隣り合うウイルタやニヴフのシャーマンは神事の道具として腰に金属の鳴り物をつけていました。

カーニクㇷも、シャーマンのものではありませんが、踊りの時の鳴り物として使います。跳ねたり、腰をひねるときに、金属の輪が触れ合って音を出します。このことから、ホスイェカーニ「尻ふりの金具」という呼び方もあります。

カーニクㇷには、よく美しい小刀がつけられています。これはエピリケㇺという女性用の小刀で、実用品でもあります。現在のこっている資料の多くは、鞘だけが下がっていて、柄と刃がなくなっています。これは、女性が夫を亡くすと鞘だけをさげるという習慣があったためかもしれません。

現在、当館では、トンコリヘチリ（トンコリの伴奏に合わせて歌・踊りをおこなう）の復元に取り組んでおり、カーニクㇷも製作中です。近々、カーニクㇷをつけて踊る姿をごらんいただけると思います。　　（北原次郎太）

カーニクㇷ（当館製作）

事業のご案内

4月28日（土）　10：30～12：00　パイカㇲコタンノミ（春の村祭り）　当館ポロチセ

13：00～　チㇷプサンケ（舟下ろしの儀式）　ポロト湖畔

財団法人アイヌ民族博物館　　編　集：木田瑞恵　　ＵＲＬ：http://www.ainu-museum.or.jp

学芸課　TEL 0144－82－4199　FAX 0144－82－6121　E-mail：museum@ainu-museum.or.jp